

## 氷河期を迎えたバイオエタノール

### ◆イギリスのバイオエタノール工場が操業停止に追い込まれた

イギリスにはトウモロコシのような穀類からバイオエタノールを生産する会社が2社あるが、その2社ともに操業停止に追い込まれた。2018年9月、イギリス南部のWiltonにあるEnsusのバイオエタノール工場が生産を停止した。価格が急低下したためである。生産再開のめどはたっていない。地球温暖化対策の花形施策であったバイオエタノール導入に影が差してきた。

一方、9月30日にはイギリス中東部にあるVivergo Fuelsのバイオエタノール生産工場が閉鎖されていた。07年に操業を開始したが、経済状況の悪化と政府のバイオエタノール導入計画の遅れから閉鎖に追い込まれた。イギリスでは、ガソリンなどにバイオエタノールを5%混ぜている（E<sub>5</sub>）が、再生エネルギー輸送燃料義務（RTF0）を変更し、10%まで混入率を高める（E<sub>10</sub>）ことが検討されていた。18年9月16日までに方針を発表することになっていたが、延期された。背景には、E<sub>10</sub>に対応できない車両が百万台あることがある。政府は引き続きバイオエタノール産業を支援すると発表しているが、電気自動車の導入方針が15日に議会通过したことも影響していると推測されている。

### ◆DuPontのバイオエタノール事業が売却された

2018年11月にDuPontは米国アイオワ州にあるバイオエタノール設備をドイツのVerbioに売却したと発表した。DuPontは15年にトウモロコシの茎や葉のセルロースからバイオエタノールを生産する工場を稼働させていたが、Dow Chemicalとの合併を機会に事業を断念した。Verbioは、設備を改造し、セルロースからメタンを生産すると発表している。

同様にセルロースからバイオエタノールを生産していたイタリアと米国の2社が倒産し、事業を他社に売却していた。ただし、アイオワ州にある米国のPoetとオランダのDSMの合併会社の施設は現在も稼働している。

米国では、穀類から生産されるバイオエタノールへの補助金が打ち切られた。セルロースからの生産はよりコスト高であり状況は厳しい。 【松村晴雄】